

多古町

ここでしか味わえない
魅力的な暮らし

みんなが子育てを応援するまち

多古町は、「待機児童0」「中学生までの給食費0」「大学生までの医療費0」の子育てにやさしい3つの「0」や公立病院での病児保育など子育て施策に力を入れています。

また、成田空港に近い立地を生かして空港と町を結ぶ空港シャトルバスを充実させ、空港から都市部などへの通勤・通学へのアクセスをサポートしています。さらに、子育て世代を中心に移住定住を図るため、官民連携事業として、子育て支援住宅をすくすくテラス（こ）を整備しました。このように、子育て施策を含めたさまざまな事業



で高い評価をいただき、第5回「日本子育て支援大賞2024（自治体部門）」を受賞しました。今後も、安心して子育てができる環境づくりに努めていきます。

町村合併70周年
魅力と活力にあふれるまち

自然豊かな田園風景が広がる中、



栗山川沿いの「あじさい遊歩道」では、桜やあじさい、コスモスなど四季折々の花々を楽しむことができます。また、道の駅

多古「あじさい館」では、食味日本に輝いたこともある「多古米」や全国でも屈指の生産量を誇る「やまと芋」など幸せを呼ぶ多古の恵みが盛りだくさん。多古町自慢の新鮮で多彩な特産品が並ぶ「ふれあい市場」には多くの人が訪れ、「キッチンTAKO」では多古の恵みをたっぷり味わえる食事やデザートも楽しめます。

今年10月には、多古米祭りや町村合併70周年記念式典が開催され、多古町のマスコットキャラクターでおおの妖精の「ふつくらたまこ」さんも10周年を迎えます。他にも11月23日に開催するいきいきフェスタTAKOなど、さまざまな催し物がありますので、ぜひお越しください。



横芝光町

「全ての世代が暮らしやすい
魅力的なまち」を目指して

横芝光町は、千葉県北東部に位置し、東京都心から約70km、千葉市から約40km、成田国際空港からは約20kmの距離にあります。北は香取郡多古町と山武郡芝山町、東は匝瑳市、西は山武市に隣接し、南は白砂青松の続く九十九里平野が広がり、太平洋に面しています。九十九里平野における最大の河川栗山川が、中央部を北から南に向けて流れています。

公共交通は、JR総武本線があり、横芝駅から千葉駅まで普通列車で約1時間、東京駅まで特急列車利用の場合は、約1時間20分で連絡しています。また、横芝光IC北側に東京行き高速バスの停留所があり、こちらも約1時間20分で東京駅にアクセスが可能です。

近年では、圏央道の大栄～横芝間の整備や銚子連絡道路二期区間（横芝光～匝瑳間）が開通したこと、成田空港の更なる機能強化に伴う成田空港直結道路の推進などにより、広域的な交通利便性の向上が高まっています。



EVバス

更に、町内では高齢化の進行による自家用車以外での移動需要の増加、運送業界のドライバー不足、いわゆる2024年問題に対応するため、令和6年2月から自動運転走行が可能なEVバスを導入・走行させることで、「全ての世代が暮らしやすい魅力的なまち」として選ばれるよう既存の公共交通と連携した新しい交通ネットワークの構築とスマートシティの実現に取り組んでいます。

今後も、町の将来像である「人・自然・文化が奏でる暮らしを夢広げる幸せ実感のまち横芝光」を目指し、一人一人が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

九十九里町

豊かな自然環境を活かした
観光と子育て施策で
より住みよい町を目指して

九十九里町は、九十九里浜のほば中央に位置し、目の前には黒潮踊る雄大な太平洋を望み、気候も温暖であるふれる太陽と豊かな自然に恵まれた町です。素朴な自然環境は、古くから多くの文豪や歌人に愛され、訪れた人を虜にしよう魅力があります。

本町では、豊かな自然環境である九十九里浜を最大限に活用した、ビーチスポーツを軸としたイベントとして、「ビーチライフin九十九里町」を昨年、初開催しました。国内初、砂浜を自転車で行くビーチクロスや、ビーチサッカーやバレーボールなどのスポーツ、ちびっこはだし運動会や飲食ブースなど、家族連れで楽しめる海水浴以外のプログラムが盛りだくさんでした。



ビーチサッカー

ほかにも、九十九里町の夏を象徴する「ふるさとまつり」や、伝統芸能を継承し歴史をつなぐ「郷土芸能まつり」、東金市と合同での「東金・九十九里波乗りハーフマラソン」



ふるさとまつり

の開催など、賑わいが戻ってきたような年でした。従来のイベントのみならず、「ビーチライフin九十九里町」のような新しいイベントを開催し、九十九里町では観光やイベントに元気が戻ってきています。

また、本町は、教育や子育て世帯の応援に特に力を入れています。毎月一回、千葉県産の食材をふんだんに使った「千産千消」給食を提供しており、今年7月には、九十九里漁業協同組合に協力いただき、九十九里産のはまぐりの給食が実現しました。「千産千消」給食を通じて、ふるさと九十九里町の食材や食文化に興味をもつ機会となることを願っています。



はまぐりの給食

また、小中学校の給食費の完全無償化や、こども園での使用済みオムツの持ち帰りの廃止、体操教室・英語教室の実施など、町独自の取り組みがたくさんあります。こうした取り組みにより、子育て世帯に愛される、より住みよい町となることを期待しています。

大多喜町

伝統を引き継ぎ、
歴史を受け継ぐまち

大多喜町は、城下町としての長い歴史と伝統、そして恵まれた自然や豊かな文化のあるまちです。

また、本町は昭和29年10月5日に老川村、西畑村、総元村、上瀑村及び旧大多喜町の合併により誕生し、今年70周年の記念の年を迎えました。そんな本町の今年の新たな事業として、多目的庁舎の建設事業が始まりました。令和8年の完成に向け進めています。この多目的庁舎は、町民の安全と安心を目指し、災害対策拠点に相応しい機能の充実を図ることとしています。また、建物の特徴としては、長い歴史がある本町らしい景観の庁舎となることを目指しています。

大多喜町役場の庁舎は、昭和34年に今井兼次氏の設計により中庁舎（旧本庁舎）が完成しました。平成15年9月3日にユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞の Award of Merit（功績賞）を受賞しました。この賞は世界遺産の登録を行って国際機関ユネスコのバンコク支部が



化遺産保全賞の Award of Merit（功績賞）を受賞しました。この賞は世界遺産の登録を行って国際機関ユネスコのバンコク支部が

平成23年に完成しました現在の本庁舎は、中庁舎の増築として計画され連絡橋で繋がっています。城下町大多喜に見られる伝統的な木造町家の屋根骨組から印象を得て、既存の庁舎に呼応する現代的な先駆的な構造で表現されています。ぜひ大多喜町を訪れましたら、歴史的に価値のある建物を一覧ください。



ぜひ大多喜町を訪れましたら、歴史的に価値のある建物を一覧ください。